



(題字 小黒千足 学長)

第359号  
(平成6年11月号)



▲秀作揃いで大好評だった平成6年度教職員文化展  
10月31日(月)～11月2日(水) (於: 黒田講堂)

## 目 次

◆ 関係法令	3	○ 平成6年度東海・北陸地区国立学校 等係長研修を実施	12
◆ 諸会議	4	○ 富山県留学生等交流推進会議座談 会開催	13
◆ 学 事	5	○ 平成6年度日本育英会奨学金返還 説明会を開催	14
○ 学位取得者	5	○ 海外渡航者	15
◆ 人事異動	5	○ 外国人来訪者	15
◆ 寄稿 海外レポート	6	○ 平成6年教職員文化展	16
○ 新ルーバン大学留学記	6	○ 学内レクリエーション	16
◆ 学内諸報	8	◆ 職員消息	17
○ 叙位・叙勲	8	○ 住所変更	17
○ 平成6年度文部省永年勤続者の表彰	8	○ 新任者住所	17
○ 平成6年度富山地区国立学校等教職員 生涯生活設計セミナーを開催	9	○ 住所表示変更	17
○ 高校生対象の公開講座「理楽塾 (=リラックス)」を開催	10	○ 討 報	19
○ 第2回(平成6年度)北陸地区国立 学校等人事事務研修を実施	11	◆ 主要行事	20

**関 係 法 令****(法 律)**

- 一般職の職員の給与に関する法律の一部を改正する法律(89)(平6.11.7 官報号外第209号)
- 国家公務員等共済組合法等の一部を改正する法律(98)(平6.11.16 官報号外第216号)

**(政 令)**

- 国家公務員等共済組合法施行令及び国家公務員等共済組合法等の一部を改正する法律の施行に伴う経過措置に関する政令の一部を改正する政令(357)(平6.11.16 官報号外第216号)
- 平成6年度における旧令による共済組合等からの年金受給者のための特別措置法等の規定による年金の額の改正に関する政令の一部を改正する政令(375)(平6.11.30 官報第1535号)

**(省 令)**

- 国立学校における授業料その他の費用に関する省令の一部を改正する省令(文部44)(平6.11.1 官報第1516号)
- 国家公務員等共済組合法施行規則の一部を改正する省令(大蔵109)(平6.11.16 官報号外第216号)
- 学校教育法施行規則の一部を改正する省令(文部46)(平6.11.24 官報第1531号)
- 学校教育法施行規則の一部を改正する省令(文部48)(平6.11.30 官報1535号)

**(規 則)**

- 人事院規則1-4(現行の法律、命令及び規則の廃止)の一部を改正する人事院規則(人事院1-4-14)(平6.11.7 官報号外第209号)

- 人事院規則9-8(初任給、昇格、昇給等の基準)の一部を改正する人事院規則(同9-8-23)(平6.11.7 官報号外209号)
- 人事院規則9-15(宿日直手当)の一部を改正する人事院規則(同9-15-6)(平6.11.7 官報号外第209号)
- 人事院規則9-24(通勤手当)の一部を改正する人事院規則(同9-24-7)(平6.11.7 官報号外第209号)
- 人事院規則9-34(初任給調整手当)の一部を改正する人事院規則(同9-34-10)(平6.11.7 官報号外第209号)
- 人事院規則9-57(教職調整額の支給方法等)の一部を改正する人事院規則(同9-57-10)(平6.11.7 官報号外第209号)
- 平成6年改正法附則第3項の規定による最高号俸等を受ける職員の俸給の切替え等(同9-98)(平6.11.7 官報号外第209号)
- 人事院規則9-6(俸給の調整額)の一部を改正する人事院規則(同9-6-24)(平6.11.16 官報第1526号)
- 人事院規則15-14(職員の勤務時間、休日及び休暇)の一部を改正する人事院規則(同15-14-1)(平6.11.18 官報第1528号)

**(告 示)**

- 平成7年度科学研究費補助金奨励研究(B)の計画調書の提出期間等を定める件(文部143)(平6.11.1 官報第1516号)



## 第 5 回留学生指導相談室運営委員会（11月 1 日）

（議 事）

- (1) 平成 7 年度以降の留学生指導相談室運営経費の負担方法について（継続）
- (2) その他

## 第 5 回国際交流委員会留学生部会（11月1日）

（議 事）

- (1) 留学生関係規定の整備について
- (2) 大学紹介英文概要について
- (3) その他

## 第 2 回学生生活協議会体育部会（11月 7 日）

（議 題）

- (1) 平成 6 年度在来生合宿研修について
- (2) その他

## 第 6 回学生生活協議会（11月14日）

（議 題）

- (1) 平成 6 年度厚生補導研究会について
- (2) 平成 6 年度在来生合宿研修について
- (3) その他

## 第 8 回生涯学習教育研究センター準備委員会専門委員会

（11月14日）

（議 題）

- (1) センターの事業内容について
- (2) その他

## 第 2 回学寮委員会（11月15日）

（審議事項）

- (1) 調理士長の定年に伴う後任補充について
- (2) 暖房用燃料の負担割合について
- (3) ダイレクトメール問題について
- (4) 受験生宿泊について
- (5) その他

## 第 1 回附属図書館増築に関する検討委員会（11月17日）

（審議事項）

- (1) 図書館増築に関する学術情報化図書館への再編について

## 第 7 回評議会（11月18日）

## 第 7 回部局長懇談会（11月18日）

（議 題）

- (1) 当面の諸問題について
- (2) その他

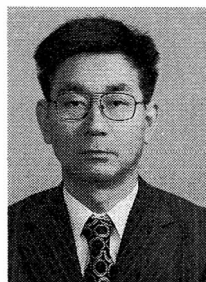
## 第 5 回生涯学習教育研究センター準備委員会（11月21日）

（議 題）

- (1) 富山大学生涯学習教育研究センター（仮称）について
- (2) アンケートの集計結果について
- (3) その他



学 位 取 得 者



学位取得者  
学位の種類  
取得年月日  
学位論文名  
論文の要旨

工学部 助手 宮腰 隆

工学博士(岡山大学)

平成6年9月30日

論理関数簡単化のための高速手法に関する研究

論理関数を簡単化すればハードウェア量の少ない論理設計が実現できる。本論文は、開発した簡単化のための各種高速手法の研究成果をまとめたもので、既存の方法より高速に高精度な簡単化が可能となることを明らかにした。



学位取得者  
学位の種類  
取得年月日  
学位論文名  
論文の要旨

工学部 助手 山本 健市

工学博士(大阪府立大学)

平成6年10月30日

回転円板法による粒子形状分離に関する研究

粒子群の機能性の向上を目的とした回転円板法による粒子形状分離に関し、その基礎的な分離機構を理論的に明らかにした。これを応用し開発を試みた2~3の形状分離装置について、その有効性および細粒子群に対する形状分離の可能性を実験的に確かめた。

人 事 異 動

異動区分	発令年月日	氏 名	異動前の所属官職	異動内 容
昇 任	6. 11. 16	神 原 貴 樹	助 手 (東京工業大学資源化学研究所無機資源部門)	助教授 (工 学 部)
	6. 12. 1	山 瀬 晋 吾	助教授 (教育学部)	教 授 (教育学部)
	〃	鳥 海 清 司	講 師 (教育学部)	助教授 (教育学部)
死 亡	6. 11. 21	前 田 あけみ	助教授 (教育学部)	死 亡 (公 務 外)
	以下余白			

## 寄稿 海外レポート

## 新ルーバン大学（ルーバンカトリック大学）留学記

教育学部教授 塚野 州 一

はじめに

私の留学先はベルギー王国の新ルーバン（Louvain Neuve）の街にあるルーバンカトリック大学（Universite Catholique de Louvain）でした。ところがベルギーには他にルーバン（Leuven）の街があり、ひこにもルーバンカトリック大学（Katholieke Univerteit Leuven）があります。日本語では両校の区別ができません。そこで地元の人達の言うように新ルーバン大学とルーバン大学とに表記しました。

## 1. ベルギーの新ルーバン大学に行った理由

この度、文部省短期在外研究員として新ルーバン大学に留学してきました。この大学を選んだのは以下の理由からです。私は発達心理学が専門領域でとくに児童・青年を対象に研究を進めていますが、研究対象と方法で共通性の多い同大学のファンデンプラス教授との間で、児童のコンピテンスの自己評価について日本とベルギー間の国際比較研究をやる計画が進んでいて、この実行計画と手順を最終段階まで進展させるねらいがありました。

また、ベルギーでは大学入試がありません。入学希望者全員が大学に入れます。ご存じのように日本では受験の及ぼす子供への影響はいまや深刻な社会的な問題となっています。

こうした日本の事情からすると、ベルギーの教育体制は検討の価値が高いと思われましたし、それに対する人々の意識の実情も探りたいと考えていました。

さらにベルギーという国はヨーロッパの中心にあって列強諸国に取り囲まれ幾度も戦乱にさらされ（ナポレオンの敗北で史上に名高いワータルローは首都ブリュッセルの近郊にあります）ながら最後にはオランダから独立を勝ち取ったというしたたかさを持った国でもあります。公用語として、北のオランダに近い地方ではフラマン語（オランダ語の方言）、南部のワロン地方ではフランス語、東部のドイツに近い地域ではドイツ語を使用している複雑な面もあります。この国の人達は共通のアイデンティティを持ちうるのかという関心もありました。（この問題を大学で同室だった5年生（日本のマスターコースの3年にあたる）の男子P君に尋ねたところ、即座に、



▲新ルーバン大学の一角

common identity はある、と行って内ポケットから自分の身分証明書を取り出して見せてくれました。それは3種類の言葉で証明文が記述されていました。言葉はちがってもわれわれは共通の身分証明書を持っているということなのでしょう。）

## 2. 新ルーバン大学の学生生活

ベルギーは人口、国土ともに日本のおよそ12分の1に満たない小国で、大学（Full Universities）は1425年創設という伝統を誇るルーバン大学を始め全部で7つしかありません。私の留学した新ルーバン大学は、ルーバン大学からフランス語系の人達が分かれて、およそ20年前創設したもので、大学及び街の人達は普通フランス語を使用しています。

そこには10の学部（facultes）があり、学生数の多い順に挙げると、医学部、経済・社会・政治科学部、法学部、哲・文学部、応用科学部など、その他に inter 学部と称する演劇、社会教育などの分野もあります。それは50の departements に分かれ、さらに unite に区分されています。私は、直接には unite de psychologie du developpement humain に所属しました。私の unite は、教育と教育心理の departement に包括されます。他に実験心理、臨床心理、の2つの departement があり、これらで心理学と教育科学部を構成しています。

1994年度の新ルーバン大学の学生数（自国出身）2万941人、外国人学生研究者4千3百人、国籍数105です。

自国の学生数も多いのですが、外国人学生研究者数と国籍数の多いのが私の関心を惹きました。西欧、東欧、アフリカ、北米、中南米それにアジア諸国と殆ど全世界から学生研究者が集まっています。

日本の大学と著しく異なるのは大学の建物とキャンパスです。大学の建物は散在しその一階のフロアは大抵商店が同居しています。私の研究室は2階にありましたが階下の事務室は隔たりはありますが、パン屋、スーパー、書店など同じ棟のフロアにありました。地下には広い駐車場があり、驚くことには地下駅があるのです。私の学部の図書館は駅の切符売り場の隣にありました。(なおベルギーには改札がなく、改札口はありません。車掌の検札のみで対応します。) 富山で例えると富山駅の一帯に大学があちこちに各種商店、銀行、郵便局、旅行社、レストラン、映画館、劇場などと共存しているといった感じです。

全学生研究者数2万5千人ほどに教職員と一般の街の人々が加わって生活している新ループンの街ですが、通勤、通学者が多く、居住者(habitants)は1万2千人といます。それにしても少ない居住者数だと思って過ごすうちに次のことが分かってきました。学生の多くは男子も女子も金曜日の午後から夕方にかけて、大きなビニール製のバックを担いだり、持ったりして、駅へ集まり電車に乗り、中には車で、ベルギー全土へそしてヨーロッパの各地へと帰省していきます。週末の大学街は人通りもまばらになります。彼らは日曜日の夜に、同じようにそれぞれの荷物を持って帰省先から戻ってきます。夜9時の電車に幾度か乗り合わせましたがラッシュアワーでした。車内で顔を合わせたら彼らは挨拶の抱擁をし、楽しそうに話し込んでいました。つまりこの学生達は居住者として数えられないのです。

### 3. 研究のこと

さて、共同研究ですが、教授との数回の討論の末、児童の認知的コンピテンスについて認知的コンピテンス、社会的コンピテンス、身体的コンピテンス、一般的自己尊重の4領域を、日本とベルギーでそれぞれの小学生を対象に調査し、国際比較をすることになり、実施計画がまとまりました。また教授から日本の文化論の講義に使用したいと、雛祭りの解説文(私の持参した写真の中から選んだもの)と、ワープロに欧文文字を入力したものが日本語に変換されていくプロセスの解説文とを英文で書くように要請されました。さらに私の学位論文の英訳を頼まれ、留学期間の前半はせっせと和文英訳の修業をするはめになりました。

後半は教授から推薦された論文と自分で図書館で探した文献の購読が主になっていきました。図書館では英文のジャーナルに加えてフランス語、ドイツ語、北欧系、そのほか欧州各地の豊富なジャーナル類をみて、うらやましいと思いましたが、日本にいることのハンディキャップも感じました。そのほか教授のマスターコースの授業、seminar と discussion に出席していました。

このとき感じたヨーロッパの研究者の有利さは次のような厳しさを伴っていることも次第に分かってきました。前述した学生の生活でも分かるようにこの大学には殆ど全ヨーロッパ各地から学生がきています。これはその規模で大学の比較評価が行われていることを意味します。実際、同宿のフランスから来ている学生は、パリの大学は難しいといて嘆いていました。さらに教官の採用も同様な範囲から応募者があるようです。私の uniteには3人の教授がいましたが、その中の40代の若手教授はアメリカの大学出身で最近採用された人でした。広範な地域から研究の情報が得られるということは、その規模で競争が行われることでもあるのです。

### 4. ベルギーの進学事情など

ここで大学入試のないベルギーの学校事情に触れておきます。6年間の小学校は日本と同じです。ベルギーでは次の6年間は secondary school になります。中学・高校の別はありません。この6年間のコース選択には2年間を単位としていくつかの組み合わせがあり、そのうち2つのコースだけが大学入学資格がとれるのです。資格があれば全員大学に入れます。ここまではベルギーは日本の受験生からみたら天国にみえます。しかし大学では1年から2年になれるのは新ループン大学では30%で、進級できなかった学生達は、再挑戦、再々挑戦する者、別の Full University や University College へさらには各種学校へと変わって行く者というように改めて進路選択をすることになります。したがって1年生数が多く、教官は1年生には1クラス500人位の講義をいくつか担当することになります。学部は2年で修了し卒論は無し、3年から5年が日本のマスターコースにあたり、5年生で始めて論文を書きます。これをクリアするとドクターコースの6年間が待っています。これは日本より長期間になり、院生は助手(週2日位勤務)などのアルバイトをしながら Ph. D. を取得するために大奮闘しています。この助手の給与は教授が支払います。助手の人数は教授間に格差があります。この点は日本より教授は辛いと思いました。

## 5. 別 れ

ベルギーの人達は外国人に対してとても friendly で、すぐに打ち解けて話をしてくれます。ベルギーきっての美しい街ブルージュで展覧会を観ての帰りに、中年過ぎの婦人と知り合い、バスから汽車の中まで話続けました。彼女はあなたが降りるのは次の駅ですよと念を押して、席から立ち上がりました。私はとっさに尋ねました。自分は間もなく日本に帰る、あなたとはもう会うことはないだろう、いまの挨拶は'またね'(au revoir)か'さようなら'(adieu)かと。一瞬考えた彼女は'またね'だと答えました。'au revoir'の言葉を残して、彼女は夕闇のホームに降りて行きました。



## 学 内 諸 報

## 叙 位

名誉教授 志甫 博逸氏は、平成6年9月29日逝去（享年82才）されましたが、同氏の生前の功績に対し、同日付けで従三位に叙されました。

## 叙 勲

去る11月3日付けで、平成6年秋の叙勲が発表され、本学関係では次の方が受章されました。

元富山大学経理部長 荒井 甚雄 勲四等瑞宝章

平成6年度文 部 省 永 年 勤 続 者 の 表 彰

文部省永年勤続者として、小林一三庶務部長が表彰され、平成6年11月22日（火）午前11時45分から学長室において、学長から表彰状が伝達され、併せて記念品の贈呈がありました。



## 45才以上対象

**平成6年度富山地区国立学校等教職員  
生涯生活設計セミナーを開催**

— 県内国立学校等から85名が参加 —

平成6年11月25日（金）本学黒田講堂において、県内国立学校等に勤務する45才以上の職員等を対象に、平成6年度富山地区国立学校等教職員生涯生活設計セミナーを開催しました。

本セミナーは、生涯生活設計の重要性に鑑み職員の生涯生活設計の確立に資するとともに、職務に対する意欲の向上と勤務能率の増進を図ることを目的に、文部省共済組合と共催で平成5年度から実施しています。

昨年度は、退職予定者を対象にしていたが、今年

度は、働き盛りの時期にある職員を対象とし、現在の生活から退職に至るまでという長期の生活設計を職員自らが立てることを支援するというプログラムになっています。

当日は、県内国立学校等から85人が参加し、文部省大臣官房福利課の中舎公立共済係長の「生活設計の必要性について」の講義を始め各講義等に対し、メモを取りながら最後まで熱心に聴講していました。

なお、日程表は次のとおりです。



▲ 文部省大臣官房福利課公立共済係長の講演を聴く受講者  
（於：黒田講堂会議室）

## 生涯生活設計セミナー日程表

9:30	受	付	
9:50	開	接	富山大学人事課長 園 利 男
10:00	30	「生活設計の必要性」について (60分)	文部省大臣官房福利課 公立共済係長 中 舎 喜 博
11:00	30	「健康管理」について (60分)	富山大学 教育学部 助教授 布 村 忠 弘
12:00	30	( 昼 食 )	
13:00	30	「生涯生活設計のための 資産の運用」について (60分)	日本興業銀行 キュービーファミリー室 参事役 佐 藤 俊 輔
14:00	30	( 休 憩 )	
15:00	30	ビデオ (ティータイム) 「いきがい」について ( 休 憩 )	
16:00	30	「税のしくみ」について (60分) (相続、不動産取得等)	向田会計事務所 所長 税理士 向 田 哲 郎
17:00	30	閉 会 の 接 拶 ( 相 談 コ ー ナ ー )	富山大学人事課長 園 利 男 銀行関係者・税理士

## 理学の楽しさ見つけよう

## 高校生対象の公開講座「理楽塾 (=リラックス)」を開催

## — 大型ハイビジョンを用いた自然科学の本格的講義 —

本学理学部では、11月12日(土)富山県教育文化会館において高校生を対象に公開講座「理楽塾 (=リラックス)」を開催しました。

この講座は、『いま高校生は本当に理工系離れをしているのか、嫌っているのか。そして、これらを何とかすることは出来ないのか』と、理学部教官10人が世話役となり、高校2年生を対象に専門的な研究内容を分かり易く講義する形の公開講座を計画し、富山県教育委員会を通じて県内高校生に参加を呼びかけ開催したものです。

公開講座は3回にわたり実施する予定で、第1回の講座は高校での実力試験の直前にもかかわらず、高校生37人に高校教員も加わって計40人の参加がありました。当日の講義は、大型ハイビジョンテレビを利用して、“チャレンジ・ザ・不等式-自然界が与える証明-”及び“ミクロに見ると、温度って何だ?”のテーマで行われ、参加した高校生は高校教科書には載っていない内容に真剣



▲ テーマに真剣に取り組む高校生

に取り組み、大学の教育に魅了された様子でした。

この後、12月に地球科学、1月に数学及び生物学について講義を行う予定です。この実績を踏まえ、来年度は本格的な化学の実験を含む講座を計画しています。



## 平成6年度東海・北陸地区 国立学校等係長研修を実施

—— 東海・北陸地区国立学校等から50人が受講 ——

平成6年度東海・北陸地区国立学校等係長研修を、文部省と本学が共催で11月8日（火）から11月11日（金）まで呉羽ハイツにおいて実施しました。

この研修は、東海・北陸地区の国立学校等の係長及び係長相当の職にある者に対して、職務遂行に必要な基本的、一般的知識を修得させるとともに、係長としての能力及び職見を確立させ国立学校等の管理運営の重要な担い手としての職員の資質向上を図ることを目的とし、毎年実施しています。今年は、東海・北陸地区の29機関から50人が受講しました。



▲ 熱心に意見交換が行われた班別討議

今回は、本学庶務部長の「特別講話」をはじめ、種々の講義、班別討議及び立山博物館の見学等を行い、全員が所定の課程を修了しました。研修期間中は、好天にも恵まれ受講生からは、大変有意義であったとの意見が多く寄せられました。

なお、日程表は次のとおりです。

### 平成6年度東海・北陸地区国立学校等係長研修日程表

月 日	時間													
	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00		
	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30		
第1日目 11月8日(火)						受付	記念式 オリエンテーション 写真撮影	特別講話 富山大学 庶務部長 小林 一三	講義 「学術行政上の諸問題」 文部省学術国際局 学術課課長補佐 芝田 政之	休憩	懇親会			
第2日目 11月9日(水)	朝食	講義 「人事行政上の諸問題」 文部省大臣官房 人事課専門員 富張 実	演習 「班別討議」	昼食	演習 「班別討議」	研修ビデオ 「服務関係」	講義 「職場のメンタルヘルス」 富山大学 教育学部教授 石原 務	休憩	夕食	自主研修				
第3日目 11月10日(木)	朝食	講義 「富山大学の教育改革」 富山大学 教育学部教授 瀧澤 弘	講義 「組織とリーダーシップ」 北陸電気工業㈱ 代表取締役社長 中村 正夫	昼食	施設見学 富山県「立山博物館」			休憩	夕食	自主研修				
第4日目 11月11日(金)	朝食	演習 「全体討議」	講義 「動き盛りの健康と漢方」 富山医科大学 医学部教授 寺澤 健年	閉講式										

## 富山県留学生等交流推進会議

## 座談会「地域住民と留学生との交流促進について」

平成6年度富山県留学生等交流推進会議（議長：小黒千足富山大学長）が、去る11月23日（火）市内の高志会館において、文部省学術国際局留学生交流政策室の小池良高地域交流推進・指導係長及び同留学生課の井村隆私費留学生係員を迎えて開催されました。

総会では、小黒議長のあいさつの後、文部省から、最近の留学生受け入れ事情について説明がありました。続いて、協議に入り、県内在住の私費外国人留学生等に対する支援方策として、

- ① 富山県が私費留学生全員に支給している富山県国際交流奨学金の支給方法の見直しによる奨学制度の充実
- ② 良質・低廉な留学生宿舎の確保について、大学の積極的な取り組みと関係機関の支援・協力
- ③ 留学生に対する博物館等文化施設の無料または割引開放及び県内各地の祭り、催し物が一目で分かる行事表の作成について

の検討が行われ、順次改善が図られるよう関係機関へ依頼することとなりました。また、推進会議の活性化を図るため、現幹事に新たに4団体（富山国際大学、富山市、富山県商工会議所連合会、富山県婦翔会）の加入が認められ、これによって、留学生に密着した施策等の企画立案を図ることとなりました。

引き続き、「地域住民と留学生との交流促進」をテーマに座談会を開き、留学生4人と推進会議委員3人からそれぞれ話題提供を受け、活発な意見交換が行われました。

留学生からは、

- ・勉強とアルバイトを両立させることが難しい。
- ・留学生と交流を深めたい日本人を紹介してほしい。
- ・日本人学生と親しくなるアドバイスをいただきたい。
- ・スポーツセンター、映画館、コンサートホール等の施設を安く利用したい。
- ・多くの留学生が入居できる宿舎を建ててほしい。

など財政的支援だけでなく心の支援が真の国際交流につながるとの発言がありました。

一方、推進会議委員からは、

- ・いろいろな行事を企画しているので積極的に参加して



▲ 富山県留学生等交流推進会議（於：高志会館）



▲ 活発に意見を交換する留学生

ほしい。

- ・留学生とのパーティが行えるよう国や地方公共団体の施設の使用に便宜を図ってほしい。
- ・国際交流団体の人と仲良くなることで少しでも悩みが解消できる。

など心の支援を充実させるため、留学生や公共機関への要望が出されました。

終わりに文部省から、「留学生と日本人との情報交換があらゆる場面で重要である。」との感想が述べられ、実りある推進会議となりました。

## 平成6年度

## 日本育英会奨学金返還説明会を開催

平成6年度日本育英会奨学金返還説明会が、11月9日(水)13時30分から経済学部201講義室で行われました。

現在、本学では延1,355名(一種 1,089名、二種 266名)が日本育英会の奨学金の貸与を受けていますが、このうち、平成7年3月に満期を迎える348名(一種 292名、二種 56名)を対象に開催されました。

当日は、日本育英会名古屋支所収納課 宮下主任及び石川係官から奨学金の返還に関する諸手続きについて説明があり、その後、富山第一高等学校 伊井教諭から、「育英友の会」の活動及び勧誘について説明がありました。対象者の約6割が参加し、メモを取ったり質問を行うなど熱心に聴いていました。

なお、この説明会に参加した学生は、それぞれが卒業後に奨学金を確実に返還していくことの意義を再確認するとともに、今後の返還に関する手続き方法を理解するうえでも、大変有意義であったものと思われます。



▲ 多くの日本育英会奨学生が参加し、開催された奨学金返還説明会(於:経済学部201講義室)

## 平成6年度日本育英会奨学生数

区 分	平成2年度以前入学		平成3年度入学		平成4年度入学		平成5年度入学		平成6年度入学		合 計
	第1種	第2種	第1種	第2種	第1種	第2種	第1種	第2種	第1種	第2種	
人 文 学 部	1	1	49	11	38(1)	7	38	10	45(1)	12	212( 2)
教 育 学 部	2		55(1)	12	42	8	48(2)	12	46	11	236( 3)
経 済 学 部	2(1)	1	68(2)	8	81(1)	15	58(1)	12	45	13	303( 5)
理 学 部	6	4	31	7	38(1)	20	46	7	28	11	198( 1)
工 学 部	15	3	57(1)	21	65(1)	18	54	21	53(3)	16	323( 5)
小 計	26(1)	9	260(4)	59	264(4)	68	244(3)	62	217(4)	63	1,272(16)
大学院人文科学研究科							4		4		8
大学院教育学研究科									5		5
大学院経済学研究科							2				2
大学院理学研究科							10		7	1	18
大学院工 (修 士)							22				22
学研究科 (博士前期)									21	4	25
大学院工学研究科(博士後期)									3		3
小 計							38		40	5	83
合 計	26(1)	9	260(4)	59	264(4)	68	282(3)	62	257(4)	68	1,355(16)

( )内は、併用貸与者数で内数。

## 海外渡航者

渡航の種類	所属	職	氏名	渡航先国	目的	期間
外国出張	人文学部	教授	磯部 彰	韓国	韓国の仮面劇における中国演劇・小説の影響をめぐる調査・研究	6.11. 2 } 6.11. 5
	工学部	〃	佐々木 和 男	アメリカ合衆国	第24回北米ニューロサイエンスミーティング出席、研究発表	6.11.13 } 6.11.19
	教育学部	〃	山 極 隆	フィリピン	国際協力事業団のフィリピン理数科教師訓練センタープロジェクト推進のため	6.11.16 } 6.11.25
海外研修	教育学部	助教授	堀 田 朋 基	アメリカ合衆国	筋疲労の国際シンポジウムに参加、研究発表	6.11. 9 } 6.11.15
	工学部	講 師	堀 田 裕 弘	〃	第1回画像処理国際会議に出席	6.11.12 } 6.11.19
	教育学部	教 授	山 地 啓 司	韓国	中央大学校学術大会に出席	6.11.16 } 6.11.19
	〃	助教授	田 上 善 夫	中 国	「歴史時代におけるモンスーンアジアの気候復元」研究集会に出席及び研究打合せ	6.11.16 } 6.11.25

## 外国人来訪者

氏名 (国籍)	本国における 所属機関・職名	来学目的	本学受入れ先	期間
ラッキー・ギャラガー (アメリカ合衆国)	北米リスク・マネジメント 保険管理協会会長	講演・研究打合せ	経済学部・教授 武 井 勲	6.11. 9 } 6.11.10
ジェリー.D.ジェニングズ (アメリカ合衆国)	アメリカ合衆国 前危機管理庁副長官	講演・研究打合せ	経済学部・教授 武 井 勲	6.11.28

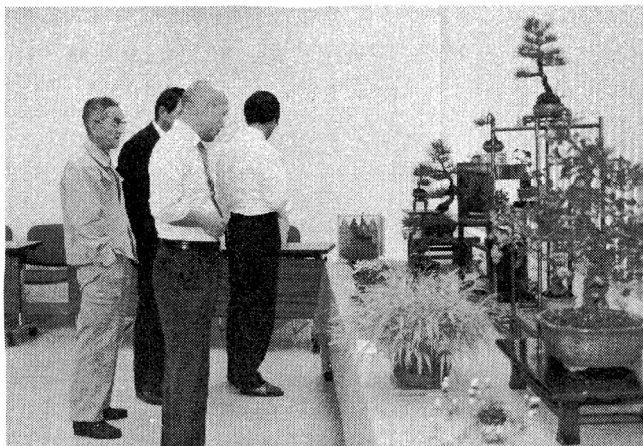
## 秀作揃いの

## 平成6年度教職員文化展

本学レクリエーション委員会文化部と文部省共済組合富山大学支部の共催により、去る10月31日（月）から11月2日（水）までの3日間にわたって本学黒田講堂会議室・エントランスホールにおいて、平成6年度教職員文化展が開催されました。

本学教職員及び家族から出品された華道16点、手芸43点、書道22点、絵画10点、盆景8点、盆栽1点、計100点が会場一杯に展示され、出展者の多彩な趣味・特技に多くの教職員が目を見張っていました。

また、お昼時には茶道班による抹茶の点出し<sup>なて</sup>があるなど、会場に見えた教職員をはじめ地元住民の方々の好評を博しました。



## 学 内 レ ク リ エ ー シ ョ ン

### <ソフトボール大会>

本学レクリエーション委員会体育部ソフトボール班と、文部省共済組合富山大学支部の共催による平成6年度部局対抗ソフトボール大会が、去る9月13日(火)から11月22日(火)の間、本学グラウンドで行われ、熱戦が繰りひろげられました。

なお、成績は次のとおりです。

優 勝 経理部チーム  
準優勝 経済学部チーム

### <バレーボール大会>

本学レクリエーション委員会体育部会排球班と文部省共済組合富山大学支部の共催による平成6年度学内バレーボール大会が、去る11月12日（土）本学第3体育館で開催され、部局等5チームにより熱戦が繰りひろげられました。

なお、成績は次のとおりです。

優 勝 教育・工学部チーム  
準優勝 人文・理学部チーム  
3 位 学生部チーム

### <野球大会>

本学レクリエーション委員会体育部会野球班と、文部省共済組合富山大学支部の共催による平成6年度部局対抗野球大会が、10月17日(月)から11月4日(金)の間、本学グラウンドで行われ、熱戦が繰りひろげられました。

なお、成績は次のとおりです。

優 勝 人文学部・理学部チーム  
準優勝 本部チーム





## 〈卓球大会〉

本学レクリエーション委員会体育部卓球班と、文部省共済組合富山大学支部の共催による平成6年度学内卓球大会が、去る11月18日（金）に本学第2体育館で開催され、部局対抗5チームによる熱戦が繰りひろげられました。

なお、成績は次のとおりです。

優 勝 本部チーム  
準優勝 工学部チーム  
3 位 教育学部チーム



## 職 員 消 息

## 〈住所変更〉

部 局 名	官 職	氏 名
教 育 学 部	助 教 授	田 上 善 夫
工 学 部	文部事務官	寺 林 忠 男
工 学 部	事務補佐員	佐 倉 珠 美

## 〈新任者住所〉

部 局 名	官 職	氏 名
人 文 学 部	助 教 授	一ノ瀬 恵
工 学 部	助 教 授	神 原 貴 樹

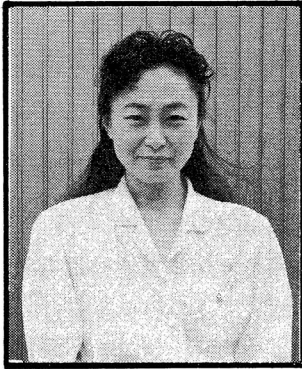
## 〈住所表示変更〉

部 局 名	官 職	氏 名
庶 務 部	文部事務官	小 林 一 三
庶 務 部 人 事 課	文部事務官	園 利 男
経 理 部	文部事務官	横 山 立 身
人 文 学 部	教 授	富 田 正 弘
人 文 学 部	教 授	海老原 直 邦
人 文 学 部	教 授	溝 口 常 俊

部 局 名	官 職	氏 名
人 文 学 部	助 教 授	松 崎 一 平
人 文 学 部	助 教 授	東 田 雅 博
人 文 学 部	助 教 授	吉 田 俊 則
人 文 学 部	助 教 授	根 津 由 喜 夫
人 文 学 部	助 教 授	水 内 俊 雄
人 文 学 部	助 教 授	二 村 文 人
人 文 学 部	助 教 授	岸 田 文 隆
教 育 学 部	教 授	山 本 都 久
教 育 学 部	教 授	岸 井 勇 雄
教 育 学 部	助 教 授	呉 羽 長
教 育 学 部	助 教 授	原 田 嘉 昭
教 育 学 部	助 教 授	加 藤 扶 久 美
教 育 学 部	助 教 授	梶 座 圭 太 郎
教 育 学 部	助 教 授	石 井 哲 夫
教 育 学 部	助 教 授	布 村 忠 弘
教 育 学 部	助 教 授	山 下 正 人
経 済 学 部	教 授	滝 川 敏 明
経 済 学 部	助 教 授	太 田 雅 晴
経 済 学 部	助 教 授	志 津 田 一 彦
理 学 部	教 授	渡 邊 義 之
理 学 部	教 授	桜 井 醇 児
理 学 部	教 授	小 島 覺
理 学 部	助 教 授	藤 田 安 啓
工 学 部	教 授	佐 治 重 興
工 学 部	助 教 授	川 原 田 淳
工 学 部	助 教 授	岡 田 裕 之
工 学 部	助 教 授	西 村 克 彦
工 学 部	助 手	蓮 覚 寺 聖 一
工 学 部	助 手	砂 田 聡

## 訃 報

## 富山大学教育学部助教授 前田あけみ氏逝去



本学教育学部助教授前田あけみ氏が平成6年11月21日に逝去されました。享年40歳。

同氏は、昭和52年3月お茶の水女子大学家政学部を卒業後、同年4月お茶の水女子大学大学院家政学研究科修士課程（児童学専攻）に入学、同54年3月同大学院修士課程を修了し、同年4月同大学院人間文化研究科博士課程（比較文化学専攻）に入学、同57年3月同大学院博士課程を単位取得後、米国ミネソタ大学大学院文化人類学心理コースに留学、帰国後、日本学術振興会特別奨励研究員、関係学研究所児童臨床研究会園児発達相談員、小田原女子短期大学非常勤講師等を経て、平成元年4月富山大学教育学部講師に就任され、平成3年6月富山大学教育学部助教授に昇任されました。

同氏は、熱意と温情をもって専門とする保育内容の研究と教育に従事されていたところ、平成3年10月より体調を崩され入院加療中でしたが、同6年11月21日に復帰の願いも叶えられないことなく逝去されたものです。

研究面では、保育者養成の中核に「いま、ここで子供と出会い、そこに展開する保育状況において発展的にふるまう保育実践力」の育成を置き、そのためには、①“みる”ことに自らを解き放つこと ②保育事象の発展過程を関係構造的に把握すること ③対人関係的

感受性を高めることが必須の要件であるとし、その方法として心理劇によるトレーニング及びチーム観察法を開発されました。

また、幼児発達の援助者としての保育者の専門性を探るため、心理劇研究会及び関係学会を中心に、人と人、人と物との関係を追究され、特に同氏に関わりの深い「能」を題材にした論文において、人間存在とその表現について身体論、役割論から考察し、日常生活と劇との関係を論ずることによって、人間にとっての劇的活動の意味を明らかにされました。

これらの同氏の功績による論文・著書等は、多数に及んでいます。

以上のとおり、同氏の研究実績は基本的保育技能の養成を目指すものとされ、今後の新たなる知見による保育研究の発展が期待されていたのに、同氏を失った打撃は計り知れないものがあり、痛恨の極みであります。

ここに同氏の御功績を偲び顕彰するとともに、御冥福を祈り、謹んで哀悼の意を表します。

# 主 要 行 事

## 本 部

- 11月 1日 就職連絡会議
- 1～2日 第52回東海・北陸地区国立大学長会議  
(立山国際ホテル)
- 2日 富山地区国立学校等人事担当課長会議  
(高岡短大)  
改正給与法説明会(人事院中部事務局)
- 7～9日 第6回富山地区国立学校等中堅職員研修  
(富山医科薬科大、立山少年自然の家)
- 7～11日 平成7年度推薦入学・帰国子女・社会人特別  
選抜入学願書受付
- 8～9日 国立学校土地有効活用検討状況等実地調査
- 8～11日 平成6年度東海・北陸地区国立学校等係長  
研修(呉羽ハイッ)
- 9日 国大協理事会(学士会分館)  
奨学金返還に関する説明会  
学内物品定期検査(工学部他)
- 9～10日 第59回国立大学学生部次長協議会(山口)
- 10日 情報処理センター運営委員会
- 10～11日 東海北陸地区国立学校等施設系職員研修会  
(立山少年自然の家)
- 11日 第3回富山大学廃棄処理施設専門委員会  
電気主任技術者会議(タワー111)
- 12日 学内バレーボール大会
- 14日 第4回授業料等減免選考委員会  
第1回入学者選抜方法研究委員会専門委員会
- 14～15日 平成6年度第16回北陸地区大学等厚生補導  
担当者研修会(芦原研修会館)
- 15日 改正給与法等説明会  
構内交通安全一斉指導  
第6回教養教育委員会企画専門委員会  
学生相談の在り方検討会  
平成9年度第5回入学者選抜実施教科・科目  
等検討会
- 16日 第2回教養教育経費部局負担検討ワーキング  
グループ会議  
健康の集い
- 16～17日 第95回国大協総会(学士会館)

- 17日 第5回教養教育委員会実施専門委員会  
学園ニュース編集委員会  
第3回入学試験実施委員会
- 17～18日 第12回大学等廃棄物処理施設協議会総会  
研修会(京大会館)
- 18日 国大協第62回事務連絡会議(学士会館)  
学内卓球大会
- 21日 一般設備費ヒアリング
- 22日 文部省永年勤続者伝達式  
営繕関係経費ヒアリング  
富山県留学生等交流推進会議(高志会館)
- 24～25日 富山地区国立学校等採用合同面接
- 25日 平成6年度富山地区国立学校等教職員生涯  
生活設計セミナー(黒田講堂)  
第37回北陸6大学施設担当者協議会  
(富山大)
- 28日 第2回教養教育教官負担検討小委員会  
平成6年度全国国家公務員レクリエーション  
共同事業富山地区ビーチボール大会
- 29日 第4回入学試験実施委員会
- 30日 平成7年度推薦入学帰国子女・社会人特別  
選抜入学試験

## 人 文 学 部

- 11月 2日 学部将来計画委員会  
学部入学者選抜方法検討委員会  
学部国際交流委員会
- 9日 教授会  
教授会(人事)  
大学院人文科学研究科委員会
- 16日 学部予算委員会  
学部紀要委員会  
独立大学院研究科(博士課程)設置検討委員  
会(仮称)
- 18日 人文科学研究科教務等検討委員会
- 30日 教授会  
教授会(人事)  
大学院人文科学研究科委員会

## 教育学部

- 2日 教育学研究科委員会小委員会  
教育学研究科委員会  
人事教授会  
教育学研究科設置記念祝賀会実行委員会  
附属幼稚園保育研究会
- 4日 平成7年度教育学研究科入学試験合格者発表
- 7～8日 日本教育大学協会北陸地区会学長・副学長・  
学部長・学部教員合同会議（芦原温泉「ホテルまつや」）
- 9日 予算委員会  
教務委員会  
教授会  
人事教授会
- 10日 紀要編集委員会  
附属学校非常勤講師任用計画に関する検討会
- 10～16日 附属幼稚園入園願書・附属養護学校入学願書  
受付
- 16日 人事教授会  
就職ガイダンス  
ルードヴィヒスブルク教育大学留学報告会
- 17日 附属学校非常勤講師任用計画に関する検討会
- 18日 入学者選抜方法検討委員会
- 24日 学部将来計画委員会
- 30日 平成7年度教育学部推薦入学試験  
教育実習検討委員会

## 経済学部

- 11月1日 大学院経済学研究科委員会小委員会
- 2日 学部教務委員会  
学部入学方法検討委員会  
財務委員会  
学部施設整備委員会
- 9日 大学院経済学研究科委員会  
教授会  
学部入学方法検討委員会（持ち回り）
- 11日 平成6年度夜間主コース設置大学学部長会議  
（KKR東京竹橋）
- 15日 防火対策委員会
- 16日 各種委員選考委員会

- 18日 平成6年度秋季国立12大学経済学部・経営  
学部学部長及び事務長会議（東京郵便貯金会館）
- 21日 学部施設整備委員会
- 22日 学部留学生委員会小委員会  
学部図書委員会（持ち回り）
- 24日 学部入学方法検討委員会  
教授会
- 25日 助手室業務運営委員会
- 30日 平成7年度富山大学経済学部推薦入学、帰国  
子女・社会人特別選抜

## 理学部

- 11月2日 学部情報化対策検討委員会  
学部入試改善委員会
- 4日 学部学生生活委員会
- 5日 公開講座「地球・生物・物質の現代像Ⅱ」  
『深海からみた地球像』
- 9日 学部入試改善委員会  
教授会  
大学院理学研究科委員会  
人事教授会
- 12日 公開講座「地球・生物・物質の現代像Ⅱ」  
『結晶の世界』
- 16日 学科長会議
- 17日 学部教務委員会
- 19日 公開講座「地球・生物・物質の現代像Ⅱ」  
『量子の世界』
- 22日 学科長会議
- 24日 学部入試改善委員会
- 29日 学部入試改善委員会
- 30日 学科長会議

## 工学部

- 11月2日 教授会  
研究科委員会
- 16日 工場運営委員会
- 17日 学部教務委員会
- 28日 入学試験検討委員会
- 30日 教授会

## 附属図書館

11月1～2日

北信越地区国立大学附属図書館事務部課長  
会議（長岡技術科学大）

10～11日 北信越地区図書館研究会（上越教育大）

11日 第2回附属図書館自己点検評価委員会管理  
運営専門委員会

〃 川合文書整理説明会

28日 第3回附属図書館自己点検評価委員会利用サー  
ビス専門委員会

## 地域共同研究センター

11月8日 地域共同研究センター運営委員会

14～18日 先端技術研修（環境コース）

16日 産学官交流 TOYAMAテクノフォーラム'94

18日 地域共同研究センター講演会

24日 企業見学と産学官交流会（富山合金㈱）

編 集 富山大学庶務部庶務課  
富山市五福3190  
印刷所 あけぼの企画株式会社  
富山市住吉町1丁目5-18  
電話（24）1755代